

しば子先生の

ミ

ニ

ミ

ニ

芝生教室



先生：水の話が続いたけれどよく理解できたかしら？
生徒：はい、普段ありふれている水がこんなに複雑な能力を持つ物質だとは知りませんでした。

先生：そうね、普段の生活感覚だけでは目に見えない事実を理解できないわね。そのために科学的客観性が必要だということね。ところでこの『客観』の意味は分かる？

生徒：えっ、客観ですか？日本語の勉強も必要ですか？

先生：芝草の科学を理解しようとするからには、科学的理解、客観的物の見方を理解できなければ間違った方向に進んでしまうわよ。日常生活での世界観とは違った『科学的認識』『客観的事実』が必要なよ。そのためには『科学』そのものの定義を理解しなければいけないわ。

生徒：なるほど・・・

先生：じゃあ『客観』の反対語は何かしら？

生徒：客観の反対語は・・・主観でしょうか？

先生：その通り・・・じゃあ意味の違いは？

生徒：んん～主観はその人個人にしか通用しない事柄で・・・客観は誰にでも通用する事柄・・・ということでしょうか・・・？

先生：たとえば、『今は寒い』というのは「主観的」で『今は13℃です』というのは「客観的」だわね・・・今が寒く感じるか温かく感じるかはその人によって違うから主観的、今が13℃であるということは誰にとっても同じ事実だから客観的事実と言えるわね。

生徒：なるほどわかりやすい例えですね・・・

先生：そうね、この程度の話ならばはっきりして分かりやすいかもしれないけれど、目に見えないような物となるとそう簡単にはいかないわね。

生徒：確かにそうですね。水は水素と酸素でできていると言っても誰も水素元素や酸素元素を見たことのある人はいないですからそれを証明しろと言われても・・・

先生：日常生活で認識できる事実だけでは科学的知識を理解することは無理ね・・・目に見えない物や現象を理解するには様々な『実験』や『分析』から**客観的事実**を突き止めなければいけないわね。水素や酸素と言った元素が物質を構成している事は長年をかけて証

明されているわ。たとえ目に見えなくても様々な実験から『そうである』ということが証明され、その事実から推論できる新たな現象も実験により証明されれば客観的事実となるわね。科学的客観性とは**様々な実験や分析を通して事実であることが広く認められている事**とっていいかもしれないわね。

生徒：なるほど・・・それこそが科学的客観的事実ということですね・・・

先生：言葉では簡単だけどアメリカと違って日本の場合は大学に専門学部の「芝草学科」を持っている大学がないので日本の芝草業界では『芝草学』の正しい知識が不足しているわ。それに甘んじて非科学的な話や資材が横行していると言ってもいいわ。科学的客観性と言っても世界的に認められている事実とまだ完全には解明されていないものもあるわ。まだ完全に解明されていない不確かな事実をあたかも確定した真実のように話されている場合もあるし、とても混沌とした状態だわ。

生徒：自分の身を守るには何が正しく客観的な事実なのかを知っていなければいけませんね。

先生：趣味の芝生の管理ならば好きなように管理するのも良いかもしれないけれど、ビジネスとしてゴルフ場という営利会社の最大の資産である芝生や土壌を正しく適正に維持管理するためには、正しい科学的知識が不可欠よ。高額な予算を計上する以上、その詳細について誰にでもわかるように『客観的事実』にもとづいて説明する説明責任があるわね。

生徒：なるほど・・・でも難しい問題ですね・・・

先生：そう、だからこそ頑張って学んでいかなければならないのよ・・・人の意見や自分の感じたものをただ鵜呑みにするだけではなく、『なぜ？』と問いただしてそれが正しいのか、なぜそうなのかを自ら調べる姿勢が必要ね。ペンシルバニア州立大学のA. J. タージョン教授の『ターフグラスマネージメント』はアメリカの芝草学科の一年生が読む本、これも今は翻訳されているわね。これは芝草学の基本中の基本の本。日本の本でも基礎的なものは農業向けの本も役に立つわ。推薦する本をHPにあげておくから読んでおいて・・・



しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp